

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



初代の心にかえり信仰の喜びを
深めよう 伝えよう 広げよう
一、持ち場立場で日々理作り
一、家族揃って教会参拝
一、一日一件にをいがけ

立教173年
8月号



弾ける笑顔がおぢばに参集

みんなきょうだい おやさとへーをテーマに立教173年こどもおぢばがえり(教会本部主催)が7月26日から8月4日までおぢばで開催され、期間中、参加の子供たちは「しこみ・ふせこみ行事」・「おたのしみ行事」を通してお互いのたすけ合いを学び、本部・詰所での楽しい一時を過ごし、終日、元気な子供たちの笑顔と歓声が響き渡った。
(大教会関係参加者数は次号掲載)

子供達を受け入れる詰所も各面で万全を期した。連日の猛暑が続く中、熱中症対策としてこまめに水分補給が出来る様、食道横に常時、お茶が飲めるよう冷茶器を設置。食堂入口では消毒液を用意、食事前に必ず使用しインフルエンザ対策など健康面を重点に取り組んだ。喫煙場所も決められた。ここ数年は各教会を中心にバス利用の団体がほとんど。駐車場にいかによく、移動しやすくバスを配置するか工夫された。

また詰所での行事も7月27日、29日、30日、31日、8月2日とフライドポテト、かき氷など趣向をこらした模擬店、詰所内に貼られたクイズ(※)、1階ロビーでのビデオ上映など多彩に用意され参加者を楽しませた。期間中、19人のひのきしん者が受け入れにあたった。

笠岡むつみ鼓笛隊、同福山隊、同高屋隊、同島

根隊も日頃の練習の成果を十分発揮、猛暑の中、鼓笛オンパレードに参加、各隊とも堂々の演奏、行進を行なった。

期間中、大過なく終え、参加者達は来年の再会を誓い合い帰路についた。

※クイズの正解者につきましては本人への図書カード手渡しをもって発表とさせていただきます。

全隊参加を期して

今年の「こどもおぢばがえり」は、7月26日から8月4日までの10日間に亘って賑やかにつとめられました。連日の猛暑にもかかわらずこどもたちの元気な歓声が親里の各会場でこだましていました。大教会では、最も早い隊が26日から、各ブロック、教会単位での帰参が次々と続き、詰所に到着して玄関で感謝状とクイズ用紙を受け取る顔は、汗と笑顔です。連日ひのきしんなどの伏せこみやお楽しみ行事に参加する子供達の明るく元気な声とともに活気のある毎日が展開されましたが今年も大きな事故やけがもなくありがたいことでした。そして夕方に中庭で行われた模擬店は大好評でした。定番のかき氷とフライドポテトは、いつも行列ができるほどの人気でした。ま

た、おなじみの館内クイズも大好評で、詰所のあちこちを駆け巡っては友達どうしで楽しく相談したり頭をひねったりする姿がみられました。

また、今年も育成掛による朝のおつとめ、ラジオ体操、目標発表などがありケジメのある日課となったようです。

鼓笛は直轄、福山、高屋、島根の四隊が日頃の練習の成果をお供え演奏し、オンパレードでは高屋隊が見事金賞に輝きました。

また全教会からの帰参という目標についての結果は、各ブロックからの報告をまたなければわかりませんが教会として帰参ができないところは教会長さんや奥さんが帰参され詰所のひのきしんに汗を流すなど尊い伏せこみの姿がありました。

各教会のみなさま、大変ごくろうさまでした。詰所のみなさま、ひのきしんのみなさまお世話になりました。ありがとうございます。

(少年会団長 中島 誠 治)

ひのきしん者の声

▼大祭ひのきしんと違ってこどもおぢばがえりは可愛い子ども達がいるので、喜んでもらおうと勇みました。

▼トイレのスリッパがきれいに並んでいるのを見

ると、子ども達が見て家庭に帰った時の様子になればと思っただけです。

▼主人の身上ご守護のご恩報じにひのきしんに来ました。

▼今までは子ども達を連れてひのきしん者のお世話になっていたが陰の皆さんのおかげと悟らせて貰ってからは、ひのきしんに参加することになり逆の立場でのひのきしんの大切さを感じました。

▼人様に喜んでもらえれば有難いことです。

▼かしの・かりものの有りがたさを改めて思い



きれいに並べられたトイレのスリッパ

ます。

育成掛をつとめて

育成掛では朝のおつとめ、目標発表、ラジオ体操、おやすみ行事等を行っています。朝のおつとめは事務所から全館にマイクを通して拍子木によるおつとめを勤めるようになりました。私も何年か勤めておりましたが、7月29日朝、他の育成掛員が拍子木、数取りをして下さっている時に初めて子ども達の様子を見に廻りました。

北棟2階大広間、3階大広間をのぞいてみますと子ども達はきちっと姿勢を正して、大きい声で朝つとめを勤めていました。アア、有り難いなあと心から感じました。育成会員の先生方のご指導、お世話取りに厚くお礼申し上げます。

(育成掛 杉原 博之)

「模擬店」に参加して……

島根分教会 門脇 加津

「こどもおぢばがえり」と言えば、夏！夏といえど……暑い！暑いと言えど「こどもおぢばがえり」と……切りが無いですが、この暑い夏の子供おぢばがえりに大勢の子供達が帰って来てくれ

る。その子供達を何から喜ばせてあげようか：と、心を配り、親心を持って毎年！用意して下さっているのが、「詰所の模擬店」だと思うのです。

毎年、模擬店の「ひのきしん」には、スタッフの一員にして頂いていますが、今迄はこの暑い時に：又あの暑い場所で：しかも火を使って：汗だくになって、何だか私：熱中症かな？と、思いながら頑張っていたのに、今年はちょっと楽な？ いや随分ラクチンな「ポップコーン」を、初めて担当をさせて頂きました。始めに作業の手順を「中島団長先生！」から、至ってアバウトな？手ほどきを受け、「こないしたらええねん！ハイ！これでOK！」なぐんで、ええーこんなラクチンで良いの？と思うほど。実際は：アタフタとねえ！

我が隊から参加している女子中学生にも始めての「ひのきしん」をしてもらい「売り子」になってもらいました。我が隊の小学生達に相對して、逆な立場からの体験は：いい経験と思いい出をつかんでくれた事と思います。

模擬店のスタッフは、夕方6時の開店に向けて、5時頃から準備にかかり、夕食は交替で済ませ、手際よく立ち上げて行きました。各々2〜5人位で受け持ち、事前の打合せどおりに？出来ました。他の出展品は、カキ氷、フライドポテト、射

的、輪投げ、等がありました。

詰所内の子供達は、夕食を済ませ、気の早い子は入浴まで済ませて待機しています。6時を合図に「今から模擬店を開店します」の全館放送で、どろっとやってきます。チケットを片手に順番に店を回る子！並ぶ子！そんな中には、食べたいのをガマンして「射的」を繰り返す子！そうかと思えば、カキ氷を何杯もお替りする子なども居て、それは賑やかで、騒がしいぐらい？でした。子供なりに、チケットをどうやって使おうかな？と思案や仲間と相談して、それなりに勉強になるようです。そんな子供に気を取られているうちに、気が付けば辺りも暗くなり、用意した商品も完売に近くなり、丁度7時に閉店しました。品切れや欠品もなくスタッフは充実感で笑顔が見えました。子供達にも、喜んで参加してくれた事と：私は確信いたしました。

今にして思えば：私はその日に来て、2時間ほど手伝って：終わりましたが、期間中！毎日！詰所に常駐して準備から片付けに至るまで、見えない部分で働いて下さった諸先生方、大汗でひのきしんに入って下さった方のお蔭です。何より！今年の模擬店で子供達が有意義に楽しませて頂いたのも、偏に「大教会長様の親心」を頂戴した賜物、すべての者に、それを大いに味わって頂いた事でしょう。



大教会長様に帰参の報告、感謝状を頂く

明日に続く足跡を残して・・・

甲井分教会 山田 睦 浩

先日、『かさおか』編集長のS原先生より電話があり原稿を書いてほしいとの事で、かなり急いでおられた様子で、テーマは、こどもおぢばがえりの模擬店で、リーダーシップをとってやられていたので、その時の事を原稿にしてほしいとの事。



縁日の楽しさを思わせる模擬店

どこで見られていたのか…。今年も、こどもおぢばがえりが開催され、我が甲井隊も2泊3日の日程で少年会員21名、育成会員7名で帰らせて頂きました。いつも、詰所の模擬店開催日を予定にいれて日程を組むのですが、だいたい毎年、射的か輪投げでしたが、今年はかき氷とのことで(本当はスーパースポーツでよかったです)、夕方の時間になり、責任者のU原S郎先生の号令でいよいよ模擬店のはじまりです。

毎年ですが、やはり射的に人気がある様です。そんな中、我々のブースは隣のフライドポテトを担当されたMヶ岡分教会に圧倒され、M本T善先生に、「こうゆうのを閉古鳥がなきよーるゆんじゃろ」と罵声をあげながらもなんとか子供達も集まってくる様になって日中あつい中を引率してくれた育成会員も、つかれた体にムチを打って子供達の笑顔に元気をもらってがんばってくれました。

毎年、こどもおぢばがえりが近づくとなれば気が付く事があるのですが、去年は夜の映画上映の時、1階ホールの巨大TVの前にイスがあり、

中に納めさすかで、リピーターが増えてくるのではないかと思います。もう終わったから、こんな事も思えるのですが、これからまたおとまり会を通して、又、来年も参加してくれる様に、子供達に接していきたいです。かなり、テーマからははずれた様に思うのですが、今年の反省や改良点などがありましたら、KOG委員長さんの方まで御一報下さればかならず対応してもらえますよ。

来年にむけて、一人でも多く子供達におぢばの空気にふれさせてやりたいと思う今日この頃です。

イスにすわれる子供もいれば立ったままの子供もいる、これはなんとか改良せねばとKOG実行委員長の○原○郎先生に提案したところ、30日に帰らしてもらったら、イスが撤去してあり、ちゃんと覚えて下さっていた事に感謝です。

だんだん、全教的に減少傾向にある様なこどもおぢばがえりですが、ただ単に行事だけで終わるのではなく、それぞれの教会で、いかに仕込みやふせ込みといった事を、短い期間で心の

こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌七月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「教」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されてきましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

準秀詠 東悠分教会前会長夫人 田林 美智子

御教えや一日一日の生きる糧

▼表紙の絵

神辺分教会 よぶぼく 小坂道利さん

第68回 英語講習会

開催



私がアメリカ在住中にこんなエピソードがあった。日本から訪ねてきた友人が日本食レストランに行った。そこでお腹いっぱいにお寿司を食べて、会計してもらおう時に考えた。ここはアメリカだけれど、日本食レストラン。会計を訪ねるのは英語がいいのか日本語がいいのか。考えた末、「ハウマツチ?」と言ったら店員がカウンターのなかから「はい、了解」と答え、暫くしたらハマチのお寿司がやってきた。二度と下手な英語はしゃべらない覚悟で「いくら?」と尋ねたら、店員が「はい、了解」と答えた五分後、イクラの軍艦が持つてこられた。困り果てて「おあいそ」というと、日本語勉強中のアメリカ人店員が笑顔を振りまいてくれた。

英語講習会はこういった失敗をしないためだけでなく、英語が好きになって英語の成績を上げたい人、少し国際的な考え方を養う機会を持ちたい人、将来海外布教に携わる人材を育てるために開催されています。
今年にはハワイから



ゲストの話を聞く受講生達

明本ダニエルさん(周東部属、パラダイスチャーチ後継者)がゲストとして招かれ、英会話授業、講話、ウクレレの演奏会、テーブルマナーの勉強会など、受講者、スタッフも共に終始和やかな雰囲気が進められました。特に今年はテーブルマナーの勉強会が好評で、これから将来必ず役に立つであろう正式な洋食の食べ方を実習しました。日程が学校の登校日と重なったため、受講者は10人程度になりましたが、アイデアや海外経験豊富な優秀なスタッフが揃ってますので、また来年様々なアイデアの中、多くの受講者が参加されることを願っています。



ゲストによるテーブルマナーの勉強

(海外部長 上原 志郎)

英語講習を受講して

大教会 上原 修

去年、僕は親に勧められて初めてこの英語セミナーに参加しました。そのときは、僕の他に高校生以上の人が、3人ほどいたので僕は高校生・大人クラスで授業を受けました。

実際、高校で勉強するのは違い、周りの人たちもそれなりの知識を持ってセミナーに参加しているの、僕が思っていたよりも少し難しい授業になりました。その中で、一生懸命周りの人たちに負けじと頑張っていました。

今回、僕は高校3年ながらもこの英語セミナーに参加させて頂きました。

中学生の子が多く、大人も少なかったのが今年は中学生クラスに参加しました。自分が一番英語を勉強していて、自分の実力を見せられる、っと思っていました。意外と中学生の子達も発言力があり、積極的に英語を話していたので、少し戸惑いました。去年も今年も同じように、海外から英語のネイティブスピーカーが来ました。今年は遠い南国の島ハワイからダニエルさんが来てくれました。日常では聞くことの出来ないネイティブな発音やイントネーションを聞くことが出来るので、英語力の向上にとっても役に立ち、ダニエルさんと話すだけで、英語の勉強になるので、とて

も楽しかったです。

1日目のレッスンでは、自己紹介やニックネームを決めたりして、クラスの人たちと仲良くなりました。その中でも、パソコンによる授業では、聞き取りの練習や発音の練習をしました。一人でも出来るので、家に帰って挑戦してみようと思いました。

その後、ダニエルさんの日本語による講話を聞かせて頂きました。自分自身の心の使い方について、ゲームを混ぜながら話してくれたのでとても面白くて印象に残っています。

夕食の後、ダニエルさんによるウクレレの演奏を聴かせていただきました。ダニエルさんはCDを出すほどのウクレレ演奏者で、日本の曲やハワイの曲を演奏してくれました。とても楽しかったです。

2日目、朝から最後のレッスンの時にやるスピーチの練習をしていました。僕は「将来の夢」



コンピュータークラス



ダニエルさんのウクレレコンサート

についてのスピーチを考えました。今まで勉強してきたことを駆使して、自分の実力を発表しました。覚えることが出来ず、原稿を見ながらではありませんでしたが自分なりにジェスチャーをおりませながら、楽しく発表できました。

セミナーの最後の昼食では「テーブルマナー」についてダニエルさんから教えていただいて、ステーキを食べました。ナイフやフォークの持ち方、お肉の切り方に気をつけながら美味しく頂くことが出来ました。

セミナーでは、英語の他にも色々なことを教えて頂きました。僕はこのセミナーでの2日間の経験をこれからの生活に生かしていきたいと思いません。

英語講習会受講

海松ヶ岡分教会 森本成人

ぼくは、英語講習会に行きました。そこで色々な事を学びました。神殿は、ワーシップホール、食堂はダイニングホール、トイレはレストルーム、講堂はジムなどすごく勉強になりました。夕食のことをサパーと言うなんて知らなかったです。レッスンではアルファベットを使ってかるたをしたり、発音の勉強をしたり、自己紹介の練習をしたり、夜にはおいしい夜食がでたり、とても楽し



テーブルマナーの実習



むずかしいなあ〜

かったです。さいしょはプリーズライムアップドントウェイストユアタイムハリーアップアンドゲットトウギャザーなんていわれてもぜんぜんわからなかったけど最終日には、分かるようになっていました。人間は、聞いているうちに、だんだんおぼえていくのです。いなかと思いましたが、学校の英語の先生がペラペラ喋っている、英語講習会に行く前は、ぜんぜんわからなかったけど行くきだしてからは分かるようになったのです。嬉しくて、行ってよかったです。と思いました。又、来年も行きたいです。

The 68th English Seminar
第68回英語講習会スケジュール
(09年8月6日~7日)

8月6日

9:00	Registration	(受付)
10:00	Opening Ceremony	(開講式)
11:00	Lets have fun	(楽しもうよ)
11:30	Lunch	(昼食)
12:30	Lesson 1	(レッスン1)
13:30	Lesson 2	(レッスン2)
14:30	Lecture	(講話)
15:00	Lesson 3	(レッスン3)
16:00	Hinokishin	(ひのきしん)
16:40	Taking a bath	(入浴)
17:40	Supper	(夕食)
	Free Time	(自由時間)
19:15	Evening Service	(夕づとめ)
19:45	Watching Video	(ビデオ鑑賞)
21:45	Night Greeting	(ナイト グリーティング)

8月7日

	Rising	(起床)
5:30	Morning Service	(朝づとめ)
6:00	Breakfast	(朝食)
	Free Time	(自由時間)
8:00	Lesson 4	(レッスン4)
9:00	Lesson 5	(レッスン5)
10:00	Lets have fun	(楽しもうよ)
10:30	Lesson 6	(レッスン6)
11:30	Lunch	(昼食)
12:30	Lesson 7	(レッスン7)
13:30	Reflection	(反省会)
	Packing&Hinokishin	(パッキングと ひのきしん)
14:30	Closing Ceremony	(閉講式)
	See You Next Year	(来年、 また会いましょう)

タンザニア伝道記



タンザニアからあなたへ

私 は 5月4日から10日間タンザニア
芳井分教会 佐藤和代

アへ行かせて頂きました。「教区衣料救援を現地に届ける」という名目のもと私の留守中にどんなに大変な事態になるんだろう? という心配の中すべてを両親と主人、主人の妹達に任せて本当に行かせて頂きました。

実際になぜ私はこの話を受けさせて頂いたのか? と考えると、きっと自分自身を心から好きにはなれないでいたからかもしれません。

〜現地についてまず、日本とは違う空気のおいに気がつきませんでした。私は自分自身が自分ではないよう

な気がして、向こうではいつももう一人の自分の行動を見ているような気持ちでした。

そして、こんな機会を与えて頂いたのだから、心から真剣に行動させてもらいたいと強く感じていました。

タンザニアでは孤児院や小学校などの、施設を回り、そこで、救済衣料を、直に渡しそのあと、おさづけの取次ぎをさせていただくという行程がほとんどでした。その間にNGOオレスのスタッフの家族へのおさづけ取次がせて頂くこともありました。私はここでのおさづけを通してここからはっとする瞬間を沢山感じさせられました。

一つは、結婚してからの14年間を振り返り、これまで主人の妻としてどんな存在だったのか? これから自分はどう生きていくべきか? と考えるきっかけを与えられたことです。

Mr. Simonさんから、おさづけについて、いろいろと教えてもらった中で、もしも、難病とされるHIVや、

マラリアなどの方に取次がせていただく場合は、自分の、命を縮めてでも何とか助かっていただきたい。という気持ちで神様と約束して取り

次ぐとよいという話がありました。私は、ある日私が取次がせて頂く列の人のリストにHIVという文字を見つけました。すぐどきどきとして、その言葉をもう一度自分に言い

聞かせました。3年いや、3カ月、3日でもいいんだよ。と言われたその言葉から私は3年を選びました。

選び終えるや否や親神様に伝えたいを込めました。その瞬間の事です。きつと、10秒ほどのその間に本当にいろんな事が頭の中に浮かんできました。

もしも、私が今3年寿命を縮め、すぐに寿命がきたとしたら日本で待つ子どもたちは、どんなに悲しむだろう。おさづけは本当に助かってもらいたいという思いでさせてもらおうんだな。そう感じた後に、10年くらい前岩国で布教していたころの主人の姿がすっと浮かんできました。たった、4年間でしたが、その間は、

ストーブやこたつは、使わないという約束の中、寒さに震える子供たちとにかく重ね着をさせて何とか低いところにならせて頂こう! っと通らせてもらう日々でした。その中で主人が、病気の方のために3日の断食や、帰ってくるや否や何も持たずのおぢばがえりを繰り返していただくの様子が脳裏に浮かんできました。

おさづけには、こんなにも思いを込めるんだ! と今更のようにはったのでした。

目の前の人に助かっていたかた。という思いを、自分がころから真剣に思ったことで初めてあの時の主人の気持ちを感じる事が出来たのでした。そして助かってもらいたいという気持ちと、主人に申し訳なかったという気持ちとで涙が止まりませんでした。日本に帰ったらすぐにこの気持ちを主人に伝えよう! として、十数年前の私の沿い切れないかと思った思いを主人に詫びよう! と感じたのでした。

そして次に私が忘れられないおさ

づけは、スタッフの皆さんへの時でした。

マラリアで熱のひかない5歳くらいの女の子を前に私は我が子とダブらせてしまっていました。実は私がタンザニアに来ている間に末の娘が入院していたということが、久しぶりに繋がった電話の中でなんとなくわかったのです。

中学一年の長男から小学校2年生の次女まで4人の子供たちは、一度も入院したことがないのが私のひそかな自慢でした。なぜ今私の留守に? 3日の検査入院のみで帰ってきたんだよ! と聞かされはしたものの、遠く離れたところで聞かされるその様子は何とも言葉にならないものでした。帰ってから聞くと、遊んでいた時に足を高く上げ、転び頭を畳に打ち付けたようで、診断書には外傷性くも膜下出血と書かれていました。その時は私はいろいろと、反省をした挙句やはり、ここで頑張るための力を神様が下さったのだなと感じました。すべて神様のプランと、たびたび教えて下さった「Prayer」

Stromさんの言葉も力となり今までより更に見えてくる事柄や、様子がバンバン心に響いて行ったのも今思えば娘の事があったおかげのように思います。

そういう事があったからこそ今離れたところにいる娘にさせて頂くはずのおさづけを目の前のこの子にさせてもらっているような気がしました。そして、ぼたぼたと流れる涙の中で取り次がせて頂く事が出来ました。きっと一生残るおさづけなると思います。

また、ふと振り返り自分を見ると私はこんなに離れた場所で、家族の事ばかり考えている事に気がつきました。そして、今この一瞬も私の大切な家族を守ってくれているお父さんやお母さんにとても感謝しました。そして尊敬する主人の元となるお父さんお母さんの築き上げてきた芳井すべてにお礼の気持ちでいっぱいでした。

そんな中、向こうから教会に電話できるチャンスがありました。電話はお父さんの声でした。思わず第一

声に、

「ごめんなさい」という言葉が出てきました。全く予測していなかった自分の声は、きっと神様からの後押しのように思えました。同様にお母さんにも同じ言葉を伝えました。実際聞こえたかどうかは定かではありませんが、私は詰まっていたものが全部出たようで、とてもすっきりした気持ちになりました。

これまで心から沿い切れなかった私から生まれ変わった様な気がしました。

最後におさづけを通して、教会というもののあり方を考えました。どの教会にもそこへ出来るまでに初代の方々の苦労があると聞かされます。そして、実際に何時間もかけて私達を訪ね、2度目のおさづけを取り次いでもらいたいという現地の人と接し、その拠点は、どこにあるのか?と訪ねてきていると聞かされた時、この状況こそ教会の元一日のなかかもしれないと感じました。そして今現在、私はその尊い教会の4代会長の妻として自教会に縁が

あり存在しています。

では、いったい何をすべきなのか?これまで続けてきたことはこれから本当に必要なのか?これからどう生きていくのか?

100年くらい前に人々がおさづけを求め教えを求め、その結果として教会は出来ていくように思います。そして、教会に過ごさせて頂く中で、その思いを伝えていく努力は出来ているだろうか?あまり普段から頭を使っていない私でも本当に心の奥から考えていくことの必要性を感じずにはいられませんでした。

現地の子供たちは本当に生き生きと生きていて、特に救援衣料の歓迎セレモニーでは、あふれんばかりのリズム感を全身であらわしてくれました。お世話になったオレスのメンバーたちも、とても、フレンドリーで、親切でした。特に私達のお世話をしてくれたメリーは今ここでこの仕事があることが本当に幸せなのよ!と朝早くから掃除、食事の準備をこなす中で私に何度も教えてくれました。一緒に帰ってきたス

タイプからも現地に住む孤児たちの大変さを教えてもらい、日本の私達がどんなに幸せかを実感させられました。水があり、電気が自由に使える。生きていくことだけで精一杯の彼らのほとんどは夢とか、希望を持っていないようです。きっと、私たちは今生きていることが当たり前すぎて感謝もせずにその先の夢や希望を見つげるために生きていくな気がします。しかし、一番大切なのは今ある事への感謝なのだと思います。

タンザニアでは自然があふれていてそのどれをとっても感激ばかりでした。動物・果てしなく続く道・空・低い雲・無数にきらめく星たち・人々の笑顔……

日本へ帰ってきてはじめてに夕陽を見ました。今まで気づきませんでした。が、閑空から帰る車内から見る夕陽も本当にきれいでした。

きっとこれからもずっときれいに見えるのだと思います。この気持ちをお忘れないうちに……私が日本へ帰って約3カ月が過ぎ

ようとしています。それまでにこの思いを伝えることが私の使命と感じ我が子の小学校・中学校で、私の見たタンザニアを伝えました。これまで私は、他の人の声や視線を気にしながら生きていたような気がしません。

今日本の常識、日本の当たり前とは一体何だろうか？と真剣に感じます。私が出れることはほとんどありませんが、とにかく感謝する気持ちを一生かけて我が子どもたちに伝え、我が夫、両親に感謝していくことを目標にして生きていきたいです。

私の旅行中お世話になったオレスの方々、ケニアから駆けつけてくれたと行動を共にしてくれた米府の幸徳君、そして尊敬するMr. Sirouさん。日本で待っていてくれたすべての人々に感謝の気持ちでいっぱいです。

「アサンテ・サーナ」

次はあなたの番です！

全教会長の参加を！

9月28日～30日「よふぼく実動日」

全教一斉にをいがけデー

9月28日から30日まで「全教一斉にをいがけデー」が全国で実施される。

これは年に一度、地域に住むお互いが力を合わせ、一手一つに心を揃えて親神様の神名、お道のにをいを広めていこうというもので、普段は個々で布教していても、この時は揃って勢いをもって全教が一斉に行動し、更なる布教活動の実を御守護頂こうとの思いから、期日を定めて実施されるもの。

28日、29日、30日は支部を中心に全よふぼくが、にをいがけ活動を展開し、28日は「教会長路傍講演の日」として全教会長の参加を目指して実施される。

全教一斉にをいがけデーは、教祖50年祭、立教100年祭に向かう両年祭活動最中の昭和7年に「全国一斉路傍講演デー」として始まり今年で78回目を迎える。

また「教会長路傍講演の日」は4年目。全教会長が自ら街角に立ち、一回でも多く親神様のお話しを世界の人々にお伝えする日と定め、よふぼく、信者の先頭に立ってにをいがけの実動を推進してもらいたいとの思いが込められている。

更に9月を「にをいがけ強調月」と定め、この月はそれぞれの教会につながるよふぼく、信者はもとより、平日は仕事や学校でにをいがけに出られない働くよふぼくや学生にも、仕事、学校帰りに、にをいがけ活動に参加してもらえる様、細やかな丹精が必要となる。

笠岡大教会では昨年、期間中、107人の教会長が参加。創立120周年記念祭を来年に控える今年は、活動スローガンの実践に向けて全教会長の参加が望まれる。

全教一斉にをいがけ事務局(布教部にをいがけ課内)では9月28日、29日、30日は記念祭、奉告祭、年祭などの教会行事の自粛を呼びかけている。

(この記事の一部は同事務局発行「担当者用実施要項」の中から許可を受け使用しています)

